



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年10月28日

上場取引所 東

上場会社名 アシードホールディングス株式会社

コード番号 9959 URL <http://www.aseed-net.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 寺地 實

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員経営グループ担当

(氏名) 橋本 義徳

TEL 084-923-5552

四半期報告書提出予定日 平成23年11月8日

配当支払開始予定日

平成23年12月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	18,730	18.3	598	49.5	596	57.4	450	68.8
23年3月期第2四半期	15,826	0.2	400	19.5	379	12.8	266	21.4

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 453百万円 (83.2%) 23年3月期第2四半期 247百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	67.73	—
23年3月期第2四半期	41.99	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	%	百万円	%		
24年3月期第2四半期	17,017	—	4,195	24.7	632.32	
23年3月期	13,854	—	3,577	25.8	564.05	

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 4,195百万円 23年3月期 3,577百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	8.00	—	8.00	16.00
24年3月期	—	8.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	32,000	10.0	570	32.4	560	42.8	350	53.8	52.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

通期の連結業績予想につきましては、新たに子会社となった宝積飲料株式会社において、グループを挙げて取り組んだ自社ブランド製品の製造・販売が順調に拡大するとともに、大手飲料メーカーや各ブランドオーナーからの受託製造も順調に推移しており、通期の連結業績予想を修正することといたしました。詳細につきましては、本日(平成23年10月28日)公表いたしました「業績予想と決算値との差異および通期業績予想修正に関するお知らせ」をご参照ください。

4. その他

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) 宝積飲料株式会社、除外 1社 (社名)
(注)詳細は3ページ「当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期2Q	6,747,624 株	23年3月期	6,747,624 株
24年3月期2Q	113,043 株	23年3月期	405,743 株
24年3月期2Q	6,646,524 株	23年3月期2Q	6,351,569 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、予想に内在する様々な不確定要因や、事業運営における状況変化等によって大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(4) 追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報等	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災により大きく落ち込んだ購買意欲や自粛モードに回復の動きが見られたものの、欧米諸国の債務問題を背景とした円高の進行に加え、原発問題を起因とした電力供給問題が長引いたことにより、景気の先行きは極めて不透明な状況で推移いたしました。

自販機オペレーター（運営リテイル）業界におきましては、自販機のロケーションや設置台数のオーバーストア状態が続くなか、同業者間における取引条件競争に加え、業種態を超えた価格競争の激化に伴う収益性の低下等により、業界再編が一段と加速化しております。また、福島第一原発事故を起因とした電力供給不安の広がりにともない、自販機の使用電力に対する問題（本質的にはアウトドアロケーションにおける自販機の過剰設置）がクローズアップされてきており、自販機産業はこれまでの量的拡大から差別化を重視した質的向上への転換が求められております。

このような状況のなか、当社グループは引き続き各事業における収益性の向上に取り組むとともに、株式交換により子会社化した宝積飲料株式会社の事業価値向上に注力いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高18,730百万円（前年同四半期比18.3%増）、営業利益598百万円（同49.5%増）、経常利益596百万円（同57.4%増）、四半期純利益450百万円（同68.8%増）の増収増益となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりです。

なお、第1四半期連結累計期間より「飲料カードシステム事業」の名称を「飲料サービスシステム事業」に変更するとともに、従来は「自販機運営リテイル事業」に区分しておりました、遊技場等におけるコーヒーサービス(カフェスコ)を「飲料サービスシステム事業」に区分変更いたしました。この変更に伴い、前年同四半期比較にあたっては、前年同四半期を変更後のセグメント区分に組み替えたもので算出しております。

① 自販機運営リテイル事業

自販機運営リテイル事業においては、飲料販売の最需要期にあたる7月初旬から9月上旬にかけての東京電力株式会社による電気の使用制限を受け、東京電力管内の自販機については前年比25%節電や販売停止等の自主規制を実施した結果、オフィスや工場を中心に厳しい販売状況となりました。このような状況のなか、当社グループでは自販機の過剰設置による環境問題の解消と消費者ニーズに即した付加価値の高い商品を提供する「フルライン自販機」を重点的に推進し、他社との差別化を図りました。

この結果、自販機運営リテイル事業の売上高は11,565百万円（前年同四半期比2.1%減）、営業利益は390百万円（同11.4%増）となりました。

② 飲料製造事業

宇都宮飲料工場においても、飲料製造の最需要期にあたる7月初旬から9月上旬にかけての東京電力株式会社による大口需要家の電力使用制限（前年比15%節電）に伴う生産調整により、大幅な減産と諸経費の増加を余儀なくされました。しかしながら、新たに子会社となった宝積飲料株式会社の志和工場（広島県東広島市）においては、当社グループを挙げて取り組んだ自社ブランド飲料の製造販売が好調に推移するとともに、大手飲料メーカーや各ブランドオーナーからの受託製造も順調に推移し、製造数量は前年同四半期比119.4%と大幅な増加となりました。

この結果、飲料製造事業の売上高は6,831百万円（前年同四半期比88.4%増）、営業利益は299百万円（同175.2%増）の増収増益となりました。

③ 飲料サービスシステム事業（旧飲料カードシステム事業）

パチンコホールのお客様に対して、自販機のソフト化によるサービス価値を高め、カップ飲料自販機の利便性を向上させる「アオンズ・カードシステム」につきましては、店舗の広告宣伝メッセージやイベント告知等を刷り込める新カードの販売強化に取り組みました。また、オフィス等のコーヒーサービス（カフェバー）につきましては、コーヒーの味と品質の更なる向上を図り、遊技場等のコーヒーサービス（カフェスコ）につきましては、不採算店舗の積極的なスクラップ・アンド・ビルドを実施いたしました。

この結果、飲料サービスシステム事業の売上高は300百万円（前年同四半期比10.4%減）、営業利益は31百万円（同32.2%減）となりました。

④ 不動産運用事業

広島県福山市内の賃貸駐車場、賃貸収益ビル、山口県周南市及び広島市西区内の賃貸事務所兼倉庫、佐賀県佐賀市内の貸店舗等の稼働がありましたが、これまで賃貸で運用しておりました宇都宮飲料工場の隣接土地及び建物を飲料製造事業における大型ペットボトル飲料製造設備と製品倉庫に転用した結果、不動産運用事業による売上高は32百万円（前年同四半期比42.9%減）、営業利益は49百万円（同8.9%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、7,325百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,890百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金の増加732百万円、売掛金の増加857百万円、製品の増加183百万円及び原材料の増加108百万円等によるものです。固定資産は、9,691百万円となり、前連結会計年度末に比べ、1,271百万円増加いたしました。これは主に宝積飲料株式会社の子会社化による建物の増加475百万円、機械装置の増加270百万円、土地の増加354百万円、有形リース固定資産の増加336百万円及び建設仮勘定の減少230百万円等によるものです。

この結果、総資産は、17,017百万円となり、前連結会計年度末に比べ、3,162百万円増加いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は9,462百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,294百万円増加いたしました。これは主に買掛金の増加1,114百万円及び借入金の増加963百万円等によるものです。固定負債は3,359百万円となり、前連結会計年度末に比べ249百万円増加いたしました。これは主に長期借入金の減少152百万円及びリース債務の増加319百万円等によるものです。

この結果、負債合計は、12,821百万円となり、前連結会計年度末に比べ、2,544百万円増加いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は4,195百万円となり、前連結会計年度末に比べ618百万円増加いたしました。これは主に四半期純利益による増加450百万円、株式交換による自己株式の減少に伴う増加178百万円及び剰余金の配当による減少50百万円によるものです。

この結果、自己資本比率は24.7%（前連結会計年度末は25.8%）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、最需要期にあたる7月初旬から9月上旬にかけて東京電力株式会社による電気の使用制限により、自販機運営リテール事業では節電や販売停止を原因とした個人消費の低迷が続きました。また、飲料製造事業では、宇都宮飲料工場においても前年比15%の節電により、大幅な減産と経費増を余儀なくされました。しかしながら、新たに子会社となった宝積飲料株式会社においては、グループを挙げて取り組んだ自社ブランド製品の製造・販売が順調に拡大するとともに、大手飲料メーカーや各ブランドオーナーからの受託製造も順調に推移しており、通期の連結業績予想を修正することといたしました。詳細につきましては、本日（平成23年10月28日）公表いたしました「業績予想と決算値との差異および通期業績予想修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結結果計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間において、宝積飲料株式会社を子会社化したため、連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,023,116	1,756,062
受取手形及び売掛金	1,536,624	2,419,848
商品及び製品	952,373	1,177,080
原材料及び貯蔵品	142,942	253,701
前払費用	1,125,016	1,068,008
繰延税金資産	121,228	75,045
その他	536,672	582,835
貸倒引当金	△2,963	△6,812
流動資産合計	5,435,010	7,325,768
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	813,693	1,318,423
機械装置及び運搬具(純額)	164,576	436,922
工具、器具及び備品(純額)	15,642	30,724
土地	3,458,478	3,812,997
リース資産(純額)	742,744	1,078,772
建設仮勘定	247,450	17,386
有形固定資産合計	5,442,585	6,695,225
無形固定資産		
のれん	646,662	606,201
リース資産	27,978	35,336
その他	20,379	30,362
無形固定資産合計	695,021	671,901
投資その他の資産		
投資有価証券	438,966	503,907
長期貸付金	35,223	34,706
長期前払費用	1,153,929	1,064,574
繰延税金資産	179,311	161,400
その他	523,351	599,828
貸倒引当金	△48,794	△40,287
投資その他の資産合計	2,281,987	2,324,130
固定資産合計	8,419,594	9,691,257
資産合計	13,854,605	17,017,026

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,345,904	3,531,189
短期借入金	1,780,000	2,595,000
1年内返済予定の長期借入金	959,098	1,107,968
リース債務	319,656	366,898
未払金	982,849	959,112
未払法人税等	26,485	90,902
未払消費税等	13,610	79,769
繰延税金負債	290	358
賞与引当金	106,656	130,860
その他	632,882	600,103
流動負債合計	7,167,432	9,462,162
固定負債		
長期借入金	2,166,975	2,014,076
リース債務	518,553	838,358
再評価に係る繰延税金負債	47,569	47,569
退職給付引当金	75,485	119,092
役員退職慰労引当金	124,892	166,480
資産除去債務	2,800	2,800
その他	173,742	171,279
固定負債合計	3,110,018	3,359,655
負債合計	10,277,450	12,821,818
純資産の部		
株主資本		
資本金	798,472	798,472
資本剰余金	976,192	1,012,778
利益剰余金	2,680,991	3,080,434
自己株式	△251,351	△72,839
株主資本合計	4,204,304	4,818,844
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△74,293	△70,957
土地再評価差額金	△550,566	△550,566
為替換算調整勘定	△2,290	△2,112
その他の包括利益累計額合計	△627,150	△623,637
純資産合計	3,577,154	4,195,207
負債純資産合計	13,854,605	17,017,026

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	15,826,743	18,730,153
売上原価	9,795,780	12,431,469
売上総利益	6,030,963	6,298,683
販売費及び一般管理費	5,630,928	5,700,538
営業利益	400,035	598,145
営業外収益		
受取利息	1,290	3,373
受取配当金	2,524	3,756
不動産賃貸料	7,090	6,497
受取賃貸料	10,183	10,201
受取保険金	—	19,693
その他	18,019	28,090
営業外収益合計	39,108	71,613
営業外費用		
支払利息	40,259	51,073
その他	19,743	21,846
営業外費用合計	60,003	72,919
経常利益	379,139	596,839
特別利益		
固定資産売却益	80	—
貸倒引当金戻入額	6,103	—
投資有価証券売却益	47	—
負ののれん発生益	5,249	21,622
その他	230	84
特別利益合計	11,711	21,707
特別損失		
固定資産除却損	503	222
減損損失	43,396	1,186
投資有価証券売却損	11	—
投資有価証券評価損	—	5,901
役員退職慰労金	—	7,000
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	6,702	—
災害による損失	—	3,720
特別損失合計	50,614	18,030
税金等調整前四半期純利益	340,237	600,516
法人税、住民税及び事業税	58,913	84,117
法人税等調整額	14,623	66,221
法人税等合計	73,537	150,338
少数株主損益調整前四半期純利益	266,699	450,177
四半期純利益	266,699	450,177

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	266,699	450,177
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△18,881	3,335
為替換算調整勘定	△146	177
その他の包括利益合計	△19,028	3,512
四半期包括利益	247,671	453,690
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	247,671	453,690

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	自販機運営 リテイル事業	飲料製造事業	飲料サービス システム事業	不動産運用 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	11,808,973	3,625,981	334,990	56,798	15,826,743	—	15,826,743
セグメント間の内部 売上高又は振替高	55,576	255,280	1,582	47,536	359,976	△359,976	—
計	11,864,550	3,881,261	336,573	104,334	16,186,720	△359,976	15,826,743
セグメント利益	350,487	108,651	46,744	53,891	559,775	△159,740	400,035

(注) 1. セグメント利益の調整額△159,740千円には、セグメント間取引消去21,072千円、のれんの償却額△5,014千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△175,798千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	自販機運営 リテイル事業	飲料製造事業	飲料サービス システム事業	不動産運用 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	11,565,904	6,831,706	300,121	32,421	18,730,153	—	18,730,153
セグメント間の内部 売上高又は振替高	56,690	348,491	1,630	76,790	483,603	△483,603	—
計	11,622,594	7,180,197	301,752	109,211	19,213,756	△483,603	18,730,153
セグメント利益	390,490	299,020	31,680	49,080	770,271	△172,125	598,145

(注) 1. セグメント利益の調整額△172,125千円には、セグメント間取引消去11,036千円、のれんの償却額△5,014千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△178,147千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結累計期間より、従来「自販機運営リテイル事業」に区分していたコーヒーサービス(カフェスコ)については、経営管理単位の見直しを行い、セグメント区分との整合性を図るため、従来の「飲料カードシステム事業」に含めることとし、セグメントの名称を「飲料サービスシステム事業」に変更いたしました。これにより、前第2四半期連結累計期間の「自販機運営リテイル事業」と「飲料サービスシステム事業」の売上高及びセグメント利益は当該変更が前年同四半期に行われたものとして組み替えて表示しております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成23年4月1日付をもって、宝積飲料株式会社の全株式を株式交換により取得し新たに子会社としたため、連結の範囲に含めております。この結果、資本剰余金が36,585千円増加、利益剰余金が21,622千円増加及び自己株式の割当てに伴う増加が194,518千円発生し、株主資本全体で252,726千円増加しております。